



平成 24 年 3 月 29 日

各 位

会 社 名 大王製紙株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐光 正義
コード番号 3880 東証第一部
問合せ先 執行役員企画部長 西川 靖
TEL 03-3271-1454

今後の事業計画の骨子について

当社は現在の連結子会社 19 社でのグループ体制の下、ガバナンス体制を再構築するとともに、従来連結子会社であった 18 社とは重要なビジネスパートナーとして今後も取引を継続し、事業を展開して参ります。

新生大王製紙として、これまでの優れた部分を継承しつつ更なる企業価値向上を図ります。その戦略として今後の事業計画の骨子を発表いたします。

なお詳細な事業戦略・内容および具体的な数値目標につきましては、現在策定・精査中であり、取り纏め次第公表いたします。

東日本大震災、情報通信メディアの変化、国内産業の海外シフト、国内少子化に伴う人口減少により、国内の紙需要は今後も減少傾向が続くことに加え、円高、中国の生産設備過剰による輸入紙の流入増加等により、事業環境は一層厳しさを増すと見られています。一方、高齢化に伴う国内シルバー向け商品や、新興国における衛生用品は、今後とも需要が拡大するものと想定しております。このような見通しの中で当社は、

1. 経営基盤の再構築

- 1) 徹底したコスト低減による洋紙事業の収益力向上
- 2) 生産・開発体制の見直し
- 3) 組織改革による省力化
- 4) 財務体質の改善

2. 成長戦略

- 1) 国内における板紙・段ボール事業とホーム&パーソナルケア（以下H&P C）事業の拡大・強化
- 2) 海外事業の拡大・強化

を重点項目として、景気変動や市況変化に影響されない筋肉質な企業体質への変革を達成することにより、更なる企業価値の向上を目指して参ります。

1. 経営基盤の再構築

- 1) 徹底したコスト低減による洋紙事業の収益力向上

当社において売上高構成比の高い洋紙事業については、以下の取り組みによりコスト競争力を向上させます。

①原材料調達のアジアへのシフト

南米、豪州等の割合が高い輸入広葉樹チップの調達を東南アジアにシフトし、輸送費低減等によるコスト低減を進めます。並行して、東南アジアで広葉樹の植林を推進し、より近隣地域からのチップ調達によるコスト競争力向上に取り組みます。

②塗工紙生産設備の改造工事によるコスト低減と品質改善・品種シフト

平成 23 年度に、品質改善とコスト低減を目的とした塗工紙生産設備の改造工事がほぼ完了致しました。当該生産設備の活用により嵩高製品や厚物塗工紙への品種シフトを進めていくと同時に、生産性の低い生産設備の停止も進めていきます。

③主力臨海工場の三島工場におけるクラフトパルプの増産

平成 25 年春頃までに広葉樹パルプ、針葉樹パルプの増産工事を完了させ、国内トップクラスのパルプ生産性を実現します。増産によるコスト低減に加え、パルプ化工程で発生する廃液を回収ボイラーで燃焼して発電することによるエネルギーコスト低減によりコスト競争力を向上させます。

2) 生産・開発体制の見直し

①生産設備のスクラップ・アンド・ビルド、生産品種のシフトを含めて、工場別生産体制を抜本的に見直し、最適生産体制を確立します。

②各社・各工場に分散配置している開発部門を一元化して、ユーザー及び生活者の視点に基づいた付加価値の高い商品開発体制を構築します。

3) 組織改革による省力化

組織の統廃合、管理スパンの拡大、業務改善・合理化投資、アウトソーシング等による組織のスリム化により、3 年以内に 900 名の省力化を実施します。新規・中途採用を一時中断し、省力化による人員を再配置することで雇用を守りながら人員の削減を実施します。900 名の削減による最終的な収益改善効果は年間約 55 億円を見込んでいます。

この組織改革により意思決定のスピードを上げるとともに、企画部門、技術開発部門等を一体運営することにより、中期事業計画における各施策の実行を早めていきます。また、この組織改革をさらに進めるために新たなコンピュータシステムを導入していきます。

4) 財務体質の改善

収益構造の改革により安定的に利益を生み出す企業体質への転換を図るとともに資産売却、棚卸資産の圧縮等を進め、資金効率向上のためのグループ・ファイナンスの導入も検討していきます。

2. 成長戦略

1) 国内における板紙・段ボール事業とH&P C事業の拡大・強化

①福島県いわき市における段ボール原紙マシン新設

需要家である段ボール会社から、中芯原紙及び外装用薄物段ボール原紙の供給数量増を要望されており、段ボール原紙マシンを新設して、平成 26 年春に営業運転を開始する

予定です。新マシンの建屋に太陽光パネルを設置することによる再生可能エネルギーの導入を検討しております。新マシン稼働により、東日本は当該いわき市の工場、西日本は三島工場を主要拠点とする生産体制が整います。さらに、当該設備投資により福島県いわき市の雇用増加を実現するとともに、東北地方の復興に貢献できるものと考えております。

②静岡県南陵新工場における新增設計画

ここ数年に亘り検討してきた静岡県富士宮市の南陵新工場の建設に着手します。今後も伸張が見込まれるシルバー商品を拡充するとともに、ウェット商品を主体に医薬部外品および医薬品分野への参入を図る計画であります。平成 25 年度上期に生産を開始し、順次設備を増強していく予定です。

2) 海外事業の強化

①タイにおけるベビー用紙おむつ事業の強化

タイのおむつ工場は、昨年 12 月に営業運転を開始しました。販売が順調であることから、2 期工事に着手し、平成 25 年 3 月に生産能力を倍増する予定です。

②紙おむつ等加工品の輸出拡大

本年 1 月に韓国に販売会社エリエール・インターナショナル・코리아を設立し、3 月に業務を開始しました。韓国及びロシアへベビー用紙おむつ輸出を拡大するとともに、シルバー向け紙おむつ、ウェット商品へと商品展開を拡充していきます。

③H&P C 海外工場を核とした段ボール事業の展開

H&P C 海外工場の敷地内または近郊に、段ボール工場の新設または M&A を進め、H&P C 事業から段ボール事業へと展開していきます。

今後の事業計画の骨子は上記の通りです。現在、詳細な事業戦略・内容および具体的な数値目標を策定・精査中であり、取り纏め次第公表いたします。

以 上